



第83号

●主な記事

令和5年度行事のご案内
支部・同期会・OB会日より
母校近況・寄贈図書

令和5年6月10日発行
一般社団法人 長野高等学校金鷄会
事務局 ☎(026)235-3822
発行人 山口 利幸
編集人 原 良通
.....
URL
<http://www.kinshi.org>
E-Mail
dousoukai@kinshi.org



ご挨拶

同窓生の皆様には、平素から同窓会にご理解・ご協力をいただいております。3年余にわたる

コロナ禍は人間社会に未曾有の影響をもたらしました。ようやく連休明けから「第5類」に位置付けられるまでに落ち着き、マスクなしで社会生活ができるようになりました。3月2日の卒業式では285名の卒業生(高75回)がマスク着用でしたが、4月6日の入学式では284名全員がマスクなしで式に臨みました。この3月に卒業した学年は入学早々の休校やオンライン授業の導入、また班活、生徒会や学校行事も著しく制限された中での高校生活でした。さぞ大変であり、また時に悔しい思いもしたと思います。しかし、同時に困難に抗してデジタル機器を活用しての意見交換、海外を含む双方向での学びや探究的学習を進めてくれました。その中で学ぶ意味やリアルな授業、活動の大切さを一人ひとりが経験した学年であったと思います。こうした学習活動は、令和4年度末を持って勇退された宮本隆校長(高31回)をはじめ教職員のご努力・ご指導と保護者のご協力の賜物であり貴重な財産でありますので、今後も廣田昌彦校長(高34回)を中心に継承し発展させていただきたいと思っております。同窓会もその一端を担い、支援するつもりであります。

さて、令和4年度同窓会として

会長 山口利幸 (高17回)

の活動(会報の発行、班活や学習活動への支援、太陽光発電の給付型奨学金、金鷄会館の運営、前庭の植栽管理等々)は、ほぼ計画通りに遂行することができました。令和5年度の総会は6月24日(土)に懇親会を含めコロナ前の形に戻して行う予定で、高39回及び高51回の当番学年の方々を中心に準備していただいております。また、学年幹事会におきましては、昨年提起した女性副会長の実現に向けて、定款の変更等を議題にしたいと思っております。

このように5年度の総会是一个の節目となりますので、多くの会員の皆様方のご参加をお待ちしております。懇親会では杯を交わし、皆で「山また山」を歌いましょう。翌日は母校の金鷄祭の公開日です。後輩の活動と併せて懐かしの旧校舎・金鷄会館にお寄りください。

本年度もよろしく願いいたします。



3月に松の剪定をしました



ご挨拶

学校長 廣田昌彦

今年から長野高校の校長に就任いたしました廣田昌彦と申します。3月までは長野県教育委員会学びの改革支援課に勤めておりました。私は高校34回の卒業生で、在校当時は吹奏楽班に所属していました。また、これまで教員として9年間勤めたこともあり、再び本校のために働けるようになったことは望外の喜びです。

本校は創立以来、進学実績や班活動などの生徒の活躍で県内外から衆目を集める学校です。4月には卒業生の進路結果を検証する職員研修会が開かれましたが、卒業学年の担任団や進路係を中心として、職員集団がどのように熱心に生徒諸君に真剣に向き合い、支援をしてきたかが相当の迫力をもって伝わってきました。また、コロナ禍でいろいろな活動が制限される中、前宮本校長の指導のもと、いち早くICTを利用したオンライン学習の体制を築いたり、生徒会行事を様々な工夫をこらして実施し、「何もあきらめない」気概を示したことで注目を集めました。

さて、長野県教育委員会は令和5年を初年度として

今後5年間の長野県教育の方向性を示す、第4次教育振興基本計画を策定しました。長野県教育委員会のHPなどでご覧いただけるようになっています。その目指す姿は「個人と社会のウェルビーイングの実現～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」ととことん追求できる「探究県」長野の学び～」とされ、生徒が主体的に学びながら、変化の激しい未来を生きていくために必要とされる資質・能力を養うことが謳われています。知識を正確に再現することに重きをおいたこれまでの教育はこの10年ほどで大きく進化しており、高校での学びも、大学入試も年々変容しています。本校でも、従前の学習支援に加え、Nagano Global Project (NGP) や総合的な探究の時間を中心に、生徒の主体性を養う探究的な学びを深化させ、ますます存在感のある長野高校を目指してまいります。

これまでも同窓会の皆様には物心両面にわたり手厚くご支援をいただいていると引き継いでおります。今後ともご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



恒例の駅伝大会：校長先生の号砲でスタートし、東和田の運動公園の外周を回ります。陸上競技場内がスタートとゴール、たすきのリレーゾーンで、観覧席には各クラスでつくった応援のクラス旗が掲げられています。



今年の応援練習のひとコマ

母校近況

● 令和4年度 金鷄賞 長野高校クラブ活動近況

令和4年度に顕著な活躍をした班・部に同窓会より総額38万5千円の副賞を添えて金鷄賞を贈りました。

1. 金鷄優秀賞

- ・弓道班 **3万円**
県大会 男子団体 優勝、女子団体 優勝
新人県大会 男子団体 優勝、女子団体 3位
- ・ラグビー班 **3万円**
7人制県大会 準優勝、県大会 4位
北信越大会 3位
- ・囲碁将棋班 **3万円**
将棋県大会 男子団体戦 準優勝
将棋新人県大会 団体戦 優勝
- ・合唱班 **3万円**
NHK全国音楽コンクール県大会 金賞
- ・ECC班 **3万円**
PDA高校生即興型英語ディベート全国大会 5位

- ・水泳班 **2万円**
県大会 100mバタフライ ベスト8
北信越大会出場
- ・陸上班 **2万円**
新人戦県大会 100m走 4位 北信越大会出場
- ・かるた班 **2万円**
新人戦県大会 優勝、全国総文祭出場
- ・文芸班 **2万円**
文芸コンクール 短歌部門 最優秀賞
- ・ダンス班 **2万円**
ダンスフェスティバル ミディアム部門 3位
- ・放送部 **2万円**
NHK杯全国高校放送コンテスト
テレビドラマ部門 優秀賞
- ・新聞部 **2万円**
全国高校新聞年間紙面審査賞 優良賞

2. 金鷄優良賞

- ・剣道班 **2万円**
新人戦県大会 女子団体4位 北信越大会出場
新人戦県大会 男子団体ベスト8
- ・羽球班 **2万円**
県大会 女子団体3位 北信越大会出場
- ・卓球班 **2万円**
県大会 女子個人ベスト12 北信越大会出場
- ・ソフトテニス班 **2万円**
県大会 女子個人ベスト16 北信越大会出場
県選抜大会 男子個人ベスト8 北信越大会出場

3. 金鷄奨励賞

- ・野球班 **1万5千円**
北信越県大会北信予選 優勝

4. 金鷄特別賞

上記各班で個人として活躍した25名と班活動以外の特別活動で活躍した11名の計36名に記念品を添えて金鷄特別賞を贈りました。

● フットサル班

2年6組 阿部タケル

長野高校にフットサル班があることはご存知でしょうか。初めて聞いたという方も少なくないのでは。

そこで、ここでは活動内容とフットサルの良さについて書きたいと思います。

フットサル班は週に4日活動しており、金土日はオフで、他の班活に比べて、それほど練習が厳しい班活ではありません。そのため勉強との両立もしやすく、兼班もでき、さらに他の趣味などにも時間を割くことができます。また新

しく、サッカー経験者の副顧問の先生に週に2回来ていただいて指導を受けています。金鷄祭での出店、歌声にも参加して、学校祭を盛り上げています。

そんなフットサル班の1番の良さは学年を超えた信頼や仲の良さにあると思います。

ここで突然ですが、アメリカのファーストレディであった、エレノア・ルーズベルトの名言の一つを紹介させていただきます。「多くの人が人生の中で現れたり消えたりしていくけれど、真の友達だけが心に足跡を残していくものです」。先ほど書かせていただいたように僕たちには心に刻まれた絆があります。みんなで仲良く活動していくなかで育まれた友情や信頼関係は高校卒業後もずっと残っていくでしょう。そういった仲の良さがフットサル班の1番



の強みです。

フットサル班は過去に何度も公式大会（マイチャンカップ）に出場して数々の実績があります。また練習で皆が心がけていることは、向く方向を一つにし、気持ちを切り替え集中して練習することで、時間は短くても充実した活動をするようにしています。

今年も大会に出場する予定なので、ご声援、ご期待のほどよろしくお願ひします。

● 排球班

排球班では、1年生7人、2年生3人、3年生7人、計17人で活動しています。日々の練習から試合に至るまで、仲間と切磋琢磨しながら楽しく班活動を行っています。

さて、私たちの最初の大会は昨年9月に開かれた長野市長杯でした。初戦は勝利することができましたが、2回戦で長野商業高校にストレート負けを喫してしまいました。自分たちはまだまだなのかという悔しさと、絶対に超えてみせろという闘志に駆られ、その後の活動に一層の情熱を注ぐきっかけになりました。公式戦

班長 3年6組 松本暉斗

や練習試合は勿論、日々の練習に至るまで、iPadで撮影した映像を分析し、各々の課題を明らかにする。そして、そこで分かった1人の課題を決して1人のものとせず、必ずチーム全体で共有して、具体的な練習に落とし込む。長商戦での負けを機に、私たちは「よく考え話すチーム」になることができ、12月の新人戦では雪辱を果たすことができました。

1月2日にはOBOGの皆さんをお迎えし、OB戦を3年ぶりに行うことができました。卒業後もこうして集まることのできる排球班に所

属していることを誇らしく感じました。その翌日から東京遠征に向かい、開成高校をはじめとする全国トップレベルの進学校と交流することができました。長野高校には「勉強に逃げるな、班活に逃げるな」という言葉がありますが、まさにその文武両道を体現している他県の同世代の高校生を目の当たりにし、自分たちも負けていけないとバレー・勉強両面で再び闘志を燃やすこととなりました。

そして今、私たちは県ベスト8以上を目指しています。人数が少ないながらも工夫して練習に励んできた成果を存分に発揮して戦ってきた

と思います。

最後になりましたが、同窓会よりご支援をいただき、充実した活動ができています。この場をお借りして御礼を申し上げます。皆様、引き続き応援よろしくお祈りします。



● 文芸班活動紹介

私たち文芸班は、3年生4人、2年生2人、1年生1人の計7人で活動しています。毎週月



曜日と金曜日、一堂に会してリレー小説、歌会、句会、読書会などの活動を行っています。他校文芸部とも頻りに交流しており、合同句会や合同読書会などを行っています。夏には毎年長野県高等学校文芸コンクールに作品を応募しています。その結果を受けて、昨年度は長野県の代表として全国高等学校総合文化祭東京大会にも出場し、全国の高校生と交流をしてきました。今年の鹿児島大会にも出場します。

なんと言っても文芸班の活動の目玉といえは班誌『紫苑』の発行です。今年の『紫苑』は班員の自由な創作物を掲載する「個人創作」と、全体を通じて一貫性のあるテーマに基づいた創作物を掲載する「特集」の大きく二つに分けて編集します。「特集」ではテーマを統一することで、むしろ顕著に現れる個人の感性の違いに注目して欲しいと思います。『紫苑』は金鷄祭で販売しますので、ぜひ手に取って読んでいただければ嬉しいです。

(班長 3年5組 青山迦那汰)

現文芸班の手元に残る、最も古い班誌『紫苑』第1号は2003年に結成した「文芸同好会」が発行しています。かつて昭和50年代半ばにも「文芸班」があり、班誌『屋根瓦』を発行。何冊かの班誌はOBの方から本校の図書館に寄贈されています。新生の文芸同好会が結成されたいきさつを調べようとした以前の顧問の六川宗弘先生(高33回)は『紫苑』第1号を編集した卒業生に手紙で問い合わせましたが、宛先不明で返送されたそうです。ご存じの卒業生の方がいらっしゃいましたら、お知らせいただければ幸いです。

新生文芸同好会は2006年に文芸班に昇格、年

1回金鷄祭の折に発行していた『紫苑』は、2012年から年2回の発行となり、内容も、小説、詩、短歌、俳句、班員全員で行う読書会の記録、全国総文祭の参加レポートなど多彩な作品が掲載されるようになりました。文芸班の活動というと、一人一人が作品を書いて、それを持ち寄って班誌にまとめていると思われがちですが、現在は週2回班員が集まり、句会を行ったり、ある作品を読んで感想や意見を語り合う読書会を行ったりしています。活動は校内だけでなく、他校と合同で読書会等も行っています。卒業した先輩も言うように「作品は書いておしまい、ではなくて人に読んでもらって初めて完成」します。作品の合評や鑑賞をし合うことで、自分の作品の「ひとりよがり」に気付いて、推敲することで作品が磨かれます。作品を通して伝えなかった自分の想いを他者に受け止めてもらうことで創作は完結します。

先輩方が試行錯誤しながらつなげてきた『紫苑』を、より良いものに創り上げようと、必死にパソコンのキーをたたいている生徒たちの活動を顧問として見守り、支えていきたいと考えています。

(顧問 高53回 佐藤理保子)

● NGP活動報告 ～新たな探究学習を目指して～

NGP推進室主任 相馬孝幸



1年発表会

日頃より本校教育活動へのご支援に感謝申し上げます。

昨年度後半の主なNGP活動としては以下の3点が挙げられます。

(1) 2学年課題研究発表会

2年生の課題研究発表会が12月20日(火)に実施されました。午前は分科会ごとの発表、午後は代表生徒6名による全体会での発表です。4月からの研究成果を発表する探究学習最大の発表会です。本年度の特徴と

しては、実験・観察等を行った理系的な研究が複数ありました。研究テーマの分野が今までより広くなり、生徒の興味関心をより引き出したのではないかと思います。それぞれ個性的で興味を引く研究が多く発表されました。

(2) 1 学年課題研究中間発表会

本校の課題研究は、1～2年生の2年間をかけて行います。よって1年生は「中間発表会」という位置づけで2月27日・28日に行われました。1年生は5名程度のグループ研究を行い、その成果を発表しました。この経験を生かして2年生での課題研究につなげてほしいと思います。

(3) 米国リーダー研修代替

立命館アジア太平洋大学(APU)訪問

1 学年では3月に希望者を募り米国リーダー研修を行ってきました。しかし、コロナ禍の中実施できない状況が続きましたが、その代替企画として九州別府にある立命館アジア太平洋大学(APU)への研修旅行を3月27日～29日に実施しました。APUは在学生の半数が海外からの留学生であり、出身国は50数か国になります。実際に留学生とのワークショップを行い「自分の英語が通じて嬉しかった」「伝えたい言葉がすぐに出てくるように今後も学習に励みたい」など、本物に触れることの大切さを実感した有意義な研修になりました。

りました。

本年度の探究学習は「新たな探究学習」を目指して大きく変わります。昨年度までは、課題研究授業の担当者が中心となり課題研究の指導にあたってきましたが、より生徒の探究学習を深いものにするために、全職員で課題研究の指導を担当することになりました。そのため時間割も変更され、月曜日6限目は1～3年生すべてが探究学習の時間に設定されました。担当の先生が数か月にわたりゼミ形式で指導にあたることにより、より深い探究学習ができることを期待しています。

今後ともご支援、ご協力の程よろしくお願ひします。



APU研修

令和4年度 長野高等学校教育設備改善のための委員会 会計報告

収入総額	3,730,193円
支出総額	780,931円
差引残額	2,949,262円

支出 (単位：円)	
科目	決算額
ICT環境整備	530,088
フレッツ利用料	40,483
フィールドワーク交通費補助	60,910
生徒派遣費	30,660
印刷費	99,000
雑費	19,790
支出総額	780,931
収支差額	2,949,262

収入 (単位：円)	
科目	決算額
雑収入	30
前年度繰越金	3,730,163
収入総額	3,730,193

支部・同期会・OB会だより

高13回 東京36会 迎傘寿祝賀会

コロナで順延を余儀なくされていた東京36会迎傘寿祝賀会は、令和4年10月4日(火)45名の出席を得て東京如水会館で開催された。幸運なことに同じく傘寿を迎えられた人間国宝、津村禮次郎能楽師の祝能舞いを能衣装付けからつづさに拝見する機会に恵まれ、祝宴に相応しい至福の舞いを鑑賞した。飯室悠紀子君から見事な花束が贈呈され、楽師を全員で囲み深瀬宏司君による記念撮影とした。

開宴冒頭、既に逝去された90余名の同期生を偲んで黙祷、そして恒例の清水英紀君指揮による「信濃の国」を斉唱、故郷への思いを深めた。引き続き長野から駆け付けた花岡荘太郎君の挨拶、轟健君の音頭による乾杯によって会場は盛り上がった。母校宮本隆校長先生からは、お祝いメッセージと本校の近況についてご丁寧な資料を頂き、出席者全員に配布され感謝の気持ち一杯である。

いつも関西から出席の高坂昌利君から、近畿県人会創設60周年の報告ご挨拶、合わせて奈良市在住の大日方重利君のメッセージが披露された。お互いの健勝を称え合う歓談の内、同期一の美声の持ち主五明則保君指揮による校歌斉唱、エールへと続き、会は最高潮となった。時の流れは誠に早く、伝統ある36会会旗は、

次回幹事クラスの高池勝彦君に授受されると共に、竹節直人君の閉会の挨拶を経て、お互いの末永い健勝を誓い合い、次なる会合での再会を期し幕とした。

(稲田英昭)

高8回 八期会 86歳を迎え最後の集い

われわれ8期会が金鷄ヶ丘を去ったのは、昭和31年3月13日だった。長年熱望した校名が「長野高校」に変更されたのはその1年後で、「北校」と呼ばれた時代の3年間だった。

さて、コロナ禍で4年ぶりの8期会が開かれたのは、5月8日(月)恒例の長野駅前「宴席油や」で、集まった会員は総勢22名。遠路東京から3名、大阪からも1名が駆け付けた。年齢からくる物故者数も年々増加しており、今回は金鷄会事務局のご協力で作成された物故者名簿を前に、仲間の冥福を祈り黙祷を捧げる。久しぶりの宴の乾杯は8期会創設時から尽くされた立野君の発声で始まった。

思えば我々は戦後の貧しい時代に少年期を過ごし、社会に出てからは日本の高度成長と期を一にして、それぞれの立場で懸命に立ち向かう日々は厳しくもあり楽しいものであった。それだけに話題の幅も広く話は尽きないものがある。



高13回



「俺は9組の愛ちゃんクラスだった」「そうか俺も愛ちゃんだ」など、会話に恩師のニックネームが飛び込んでくる。ところで、あの頃の先生にはほとんどニックネームが付けられていた。先輩から言い継がれたもので、日常生徒の間で使われており、苗字は忘れてもニックネームだけで今でも話は通じる。国語の「わたひゃ」、数学の「もしょう」や「マンモス」、人文地理の「ご開帳」、物理の「タヌキ」、体育の「警視庁」、化学の「ゴンキ」、英語の「フィッシング」などなど。

恒例となっているドクター小林(脳神経外科)の健康の話は、80代後半の心得を分かりやすく解説。続いて

今回は最後ということで、スピーチタイムを設けて思い思いの話を全員に披露してもらった。

最後は8期会の旗を前に記念撮影。続いて村田君の指揮で校歌「山また山」、応援歌「南下軍」、「立てや吾等が選手」、「見ずや春風」80代後半とは思えぬ若々しい大合唱。あとは東京地区代表井原君の万歳三唱で締めくくる。

こうして時空の隔たりを飛び超えて、10代の熱い日々の記憶が鮮やかに甦ったひとときであった。

(金子 弘)



高10回 ー山々会名称も新たに再開ー

我々高10回生の東京地区山々会は、平成30年の第30回を以って千秋楽としていたが、令和の時代に入り、コロナ禍の収束を待って令和5年、漸く再開することができた。

5月24日(水)六本木の国際文化会館に19名が集合。窓越しの新緑の庭園の美しさに皆見とれ始めた正午、世話人の「我々昭和33年卒10回生は長野北高校が長野高校に改称された最初の年次同窓生であり、しかも本年は卒業65周年に当たる。よって長野高校金鷄会10回生と名乗ることとした」との挨拶で開宴となった。

全員で乾杯の後、司会者のリードで出席者全員が1人3分以内で近況をスピーチ。この4年間の空白期間を終えてやっと皆さんに元気に会えたとの喜びを語るほか、7度目の年男(84歳)を迎える今日、自身の健康維持方法を語る者も多かった一方、体調不良から本日欠席せざるを得なかった仲間を思いやる場面も見られた。

4皿に亘って出されたフランス料理に舌鼓を打ちつつ、各人のスピーチを聴きながらテーブル内で談笑する時間はあっという間に過ぎ、終盤に校歌と「信濃の国」を全員で斉唱(須田荘一郎君リード、久保博幸君ハーモニカ伴奏)して、世話人が閉会の言葉を結び、14時お開きとなった。

当日は固定席のため予め出席者の飲み物の嗜好を

聴取して臨んだ。因みに19名の飲み物は、乾杯はビール13名、ノンアルコール6名、その後はアルコール別に赤ワイン8名、白ワイン3名、焼酎2名、ノンアルコール1名、ウーロン茶5名。

当日の世話人は笠原忠興、上松恭一、友野信、峯村公雄の4名。

(笠原忠興)

県庁金鷄会

「県庁金鷄会有志懇親会」を開催しました。

長野県庁では、毎年3月に金鷄会の総会を盛大に行っていました。しかし、コロナ禍が続く中で、この3年間、開催できない状況が続いていました。一方で、3月にはマスクの使用が個人の判断に委ねられるなど、少しずつ社会行動にも変化が起きています。本会も再始動に向けて一歩踏み出したいとの思いから、まずは、3月に退職する会員を中心に有志による懇親会を3月14日(火)に執り行いました。

当日は、(一社)長野高等学校金鷄会事務局長で同校の校長先生も歴任された原良通様をはじめ、金鷄会員である3名の県議会議員の皆様にもご参加いただき、原様からは、

- ・コロナ禍を契機に他校にも増してICTの活用がすすんだこと
- ・文科省のSGH指定以来、探究活動・課題研究、国際交流に先進的に取り組んでおり、地域



課題を解決できる「人材育成」に注力していること

- ・ 県の施策とともに、同窓会の支援 (120周年事業) など設備・環境面が充実したこと
- ・ 上記に加え、常に先を見た日常の取組みの結果、進学実績や班活動で良い成果を挙げていること
- ・ その他、近年は男女比がほぼ同等で、この3月の卒業生は女性の方が多かったこと、令和4年度、史上初めて1年生が生徒会長になったこと

などの近況をご報告いただきました。また、懇談の中で参加者からは、入学した4月の応援練習が怖かったこと。特に当時の応援団長が…(笑)といった母校での思い出話で盛り上がり、楽しいひと時となりました。

今や「オンライン会議」が当たり前で便利な社会になってきていますが、こうして、実際に顔を合わせて交流することの大切さも再認識した機会にもなりました。

今年度、新たな県の総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」がスタートしました。計画の実現には、自ら学び、他者と共に次代の扉を拓く力を有する人材が必要です。

県では、共に新たな時代を創る「仲間」になってくれる職員を求めていますので、是非、将来の選択肢とし

て考えていただければ幸いです。

(高37回 田中達也)



高9回 東京北ラス会

5月8日(月)、コロナ禍も一区切りついた初夏の風薫る良き日に、高9回北ラス会の39名がKKRホテル東京に集うことができました。

まだ仕事を続けている人や第二、第三の人生を楽しんでいる人など話題も多岐にわたり、話が尽きず大変にぎやかな数時間でした。また秋には長野で、来春には東京で元気に顔を合わせようと挨拶を交わして終わった集いでした。

元気な84歳、まだまだこれからもこの北ラス会は続きそうです。

(小粥節子)



高9回

美術室前の下り傾斜は「満寿夫スロープ」?



現校舎での卒業生、または在校生のみなさんの中に、美術室入口に向かって廊下が下りスロープになっていることに疑問を持った方はいませんか。それとも意識せず通っていましたか。

この下りスロープは、美術室の天井高を高くするために設計段階で加えられたものです。当時、長野高校教諭として勤務されていた元県教育次長菅沼尚先生（昨年まで市立長野高校の校長、今年より参与をされています）にお聞きし

たところによると…。

1989年（平成元年）7月、創立90周年記念式典につづく記念講演に講師として来校した池田満寿夫氏（高4回）が、校舎（建て替え前なので旧校舎）を見学されました。その際、口の字型に展開している校舎の北西角2階にある美術室で、豊かな発想、創造的な活動にはこの高い天井の空間がとても大切である旨を話されたそうです。案内した菅沼先生をはじめ当時の先生方に特にそのことばが印象深く残っており、校舎改築の検討が進む中で、美術室の空間を少しでも確保するため床を一段下げる工夫を設計に反映させた、とのことでした。

池田満寿夫氏の思いが伝えられていなかったら、このスロープはなかったのかもしれない。



お話を伺った
菅沼尚先生



池田満寿夫ギャラリー

金鷄会館では池田満寿夫（高4回）の作品を50点余り、常設展示しております。ぜひ、ご覧にお越しください。
（平日14時～17時、それ以外の時間は予めご連絡ください）



結婚相談室のご案内

相談日は
水曜日です

1. 相談日時 原則として水曜日のみ 10時から16時まで
2. 相談員 長野高校の同窓生である女性相談員が務めております。
ご本人の来室が難しい場合、ご家族様が代わりに相談にお見えになっても結構です。
ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。
お問い合わせ先 TEL 026-235-3822(平日14時～19時)
E-mail dousoukai@kinshi.org http://www.kinshi.org



訃報



長野高等学校同窓会会長を足かけ20年にわたり務めていただいた塚田佐さん(高6回)が令和5年2月22日にお亡くなりになりました。

塚田さんは、家業の長野白土産業の専務取締役、長野青年会議所副理事長などを歴任し、昭和42年から長野市議会議員(2期)、昭和50年から長野県議会議員(3期)を務め、昭和60年の長野市長選挙で初当選し、平成13年11月まで4期16年にわたり長野市長を務められました。市長在任中には北陸新幹線の長野開業とそれに伴う長野駅周辺の整備事業、長野冬季オリンピック・パラリンピックの招致から開催実現など、地域の発展に力を尽くされました。

こうした多忙な公務の中、平成5年6月より同窓会長に就任されました。在任中には多くの事業・イベントがありました。校舎改築および

塚田 佐氏(高6回)

竣工記念式典(平成7年2月)、旧校舎南校舎を同窓会館として取得および保存・活用、創立100周年(平成11年)・110周年(平成21年)記念事業、一般社団法人金鷄会と同窓会を統合した一般社団法人長野高等学校金鷄会の発足(平成25年2月)など、どれも同窓会としては一大事業で、会長として先頭に立ち適切な舵取りをしていただきました。

これら幾多のご功績に感謝申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。



塚田佐氏渾毫の門柱看板

令和5年度 同窓会総会のご案内

期 日 令和5年6月24日(土)
 会 場 ホテル国際21
 総 会 午後2時～ 芙蓉の間
 講演会 午後3時～ 芙蓉の間
 演 題 「コーヒーと健康と長野高校と」
 講 師 珈琲豆新井商店 店主
 全日本コーヒー検定委員会
 コーヒーインストラクター講師
 ブラジル サントス商工会認定
 コーヒー鑑定士
 新井 弘之氏(高39回)
 懇親会 午後4時30分～ 藤の間
 会 費 6,500円 当日受付でいただきます。

*今年度の当番は、高39回・高51回の方々です。
 *出席される方は事務局へお知らせください。

回期別対抗ゴルフコンペのご案内

期 日 令和5年9月23日(土)秋分の日
 場 所 長野カントリークラブ
 TEL 026-239-3100
 費 用 プレー代 15,250円(食事付き)
 ※優待券は使えません
 参加費 3,000円
 競技方法 新ペリア方式
 ☆団体戦：各回期上位3名までの団体
 合計成績順位
 ☆個人戦：個人別成績順位
 申込方法 メールまたはFAXで同窓会事務局へ各
 回期3名以上の連記(2組以上も可)で
 お申し込みください。
 締切り日 9月9日(土) *25組で締切ります

※今年は、個人参加の枠も若干用意しましたので、同期3名以上とならない方もご参加いただけます。
 ※各組のスタート時刻、その他詳細については9月15日頃、参加者にご連絡いたします。



金鷄太陽光120奨学金



令和2年度からスタートした120周年記念事業の太陽光奨学金も今年で3回目となりました。令和5年3月2日の卒業式当日、校長室において山口会長から2名の卒業生に激励のことばとともに贈呈いたしました。卒業生からは感謝の言葉をいただくとともに進学後の希望を聞かせてもらいました。なお、匿名の同窓生からのご寄付を4年度もいただいたため、今年も上乘せして給付することができました。

また、昨年の奨学生から進学後の近況が送られてきました。大変な中でも有意義な学生生活を送っている姿が彷彿とされます。それぞれの道で頑張っている様子をご一読ください。今後の活躍に期待したいと思います。

私は令和3年度卒業の太陽光奨学金の奨学生です。この奨学金をいただけたことで大学生活に必要な勉強道具や家財などを購入することができ、大変感謝しております。このような機会をくださった皆様に感謝を述べたいです。

ここでは、私が実際に過ごした大学生活について述べさせていただきます。

知らない土地での新しい環境はとても新鮮で、ホームシックもありましたが楽しく過ごしています。一人暮らしの友達が一番遠い人でも自転車で10分あれば会えるという環境であるため非常に楽しく、また貴重な時間であると思いつながり大切に過ごしています。

大学での講義はレポートやディスカッションを用いた、私たちが自主的に考え、話し合うことで進んでいきます。高校で受けてきた授業とは全く異なる経験で、最初は戸惑ったことを覚えています。私の初めての課題はレポートだったのですが、その内容が「鉄筋コンクリートの

代替品を考え、そのわけを述べよ」というもので混乱しながら提出しました。また、講義の中ではディスカッションが行われることが多く、最初は初めて会う人と急にディスカッションに移ることは抵抗がありましたが、思い返せば長野高校に在籍していた時にはNGPの時間にディスカッションを行っていました。そのおかげで大学での講義でもファシリテーションすることなどができ、論点に対し適確な意見の積み重ねをすることや、より良い意見を出すことができています。在籍時は何のために教科学習以外の時間をこんなにとるのか不思議に思っていました。今となっては重要性がよくわかります。無意味に感じることも後からその有用性がわかることは多いです。これが現時点での私の大学生活における話となります。

繰り返しになりますが、私がこのように大学生活が送れているのもこの奨学金が利用できたからです。ありがとうございました。

昨年度、太陽光奨学金をいただき、誠にありがとうございました。あの資金により、入学にあたりかなり余裕ができましたことを厚くお礼申し上げます。

さて、私は本年度4月、大学の理学部第二部の数学科に入学いたしました。幼いころから好きであった数学を修め、好きな研究に勤むと

ともに、将来これを世のために役立てるためです。そのために私は教職課程を取りました。

ゆくゆくは教員免許を取得し、高校の先生になりたいと思っております。まだ見ぬ若い世代に数学の技能を教えるとともに、この楽しさを伝えたいと強く願ったからです。そのための勉強もまた、数学の勉強と並行していきたいです。

夜間学部というのは入学するまで全く知らない世界でしたが、いざ受講してみると数学を志す社会人も多く在籍し、自分にとってとても良い刺激になったように思います。

他大学の文系学部を出たものの数学に目覚めたという30代の方とも仲良くなることができました。私もこの方に負けず、互いに切磋琢磨していく所存です。

大学範囲の数学については、高校範囲のより突っ込んだ細かな定義や拡張であったり、あるいは線形代数といった未知の世界だったり、はたまたコンピューターを用いた表現技法であったり、多岐にわたるものを新たに知識として吸収することができ、好奇心が常に刺激される充実した日々を送っております。

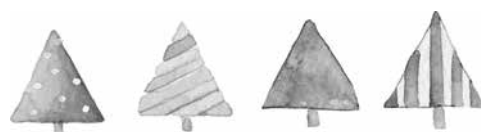
教養科目についても、これまでは雑学の範囲であったものや文系範囲で私とは本来縁がなかったであろう様々な分野を学ぶことができ、これも楽しく受講させていただいております。

実家が全く裕福でないこともあり、自分も働かないとたちまち火の車に陥ってしまいますので、夜間学部であることを活かし、昼間にアル

バイトをしております。幸い、学食に勤めることができました。一年生のうちはまだ学生生活に慣れないこともあり、一週間に3日の勤務でしたが、二年次以降は日数を増やすか、あるいは他の職場についても検討しようと考えております。

長いようであっという間だった一年間をこのように過ごしました。先日、掲示板を確認したところ、一年次の必修科目は全て取得できておりました。一生懸命真面目に努めたのであまり心配はしておりませんでした。それでも留年率が極めて高いと聞いており、ほんの少しだけ不安でしたので、とても安心しております。

来年度以降もまた今年度同様に、数学をはじめとした様々なことを精一杯学びたいと考えております。



市民大学事業

金鷄会館連続公開講座

公開講座

主催：一般社団法人長野教育文化振興会
 協力：一般社団法人長野高等学校金鷄会
 後援：長野県教育委員会、長野県長野高等学校
 於 金鷄会館 大講義室

考古学シリーズ5

第1回 5月27日(土) [第328回講演]

中野市教育委員会事務局 生涯学習課 文化財係 学芸員
 柳生 俊樹 先生

「青銅器祭祀との決別」-中野市柳沢遺跡の銅戈・銅鐸を考える-

第2回 6月17日(土) [第329回講演]

一般財団法人長野県文化振興事業団
 長野県埋蔵文化財センター 調査部 調査指導員
 中野 亮一 先生

「近世信濃国の城と城下町」-発掘調査が謎を解く-



第3回 7月1日(土) [第330回講演]

一般財団法人長野県文化振興事業団
 長野県埋蔵文化財センター 調査部長兼調査第一課長
 川崎 保 先生

「塔鉢形合子はなぜ長野市小島・柳原遺跡群に埋められたか」
 -正倉院・日光男体山・善光寺との関係を考える-

寄贈図書

 <p>情報制御システム研究開発まんだら ～システム研究開発の歴史～ 著者 井原廣一氏(高7回)</p>	 <p>すばらしき日本の伝統織物今昔 著者 知野光伸氏(高7回)</p>	 <p>医療・福祉の総合情報誌 JAPAN MEDICAL SOCIETY 2023年新春号～5月号 野村元久氏(高10回)寄贈</p>	 <p>流れのほとりの木のように 一大樹への出発— 著者 矢澤俊彦氏(高13回)</p>	 <p>上海の1111日 2019-2024—EXHIBITION 上海日本人学校の「あゆみ」 著者 飯田治夫氏(高17回)</p>
 <p>「おのずから」と「みずから」 日本思想の基層 著者 竹内整一氏(高17回)</p>	 <p>分野ごとの民事問題の実際と進め方 著者 伊藤慎二氏(高18回)</p>	 <p>改革・改善のための戦略デザイン 病院DX 著者 野末睦氏(高28回)共著</p>	 <p>気になる子の「できる!」を 引き出すクラスづくり 実行機能を活かして育ち合うための保育のコツ 著者 福岡 寿氏(高28回)</p>	 <p>ニャオくんのおてつだい 著者 三国コマ(昌子)氏(高30回)</p>
 <p>「長野高校弓道部の歩み」 それぞれの輝き、正射必中 1959年から2022年まで 柳澤幸弥氏(高32回)寄贈</p>	 <p>「捨てるもの」からビジネスをつくる 失われる古民家が循環する サステナブルな経済のしくみ 著者 山上浩明氏(高47回)</p>	 <p>高木秀太事務所白書 The White Paper by TAKIAGI SHUTA OFFICE 著者 高木秀太氏(高55回)</p>		 <p>長野高校生物班OB会誌 うばたまむし15号 2022(令和4)年 生物班OB会 寄贈</p>

令和5年度同窓会費(3,000円)のご送金をお願いいたします。

送金方法

同封の振込用紙でのお振り込み ⇒ コンビニ・郵便局でお振り込みください
銀行へのお振り込みは下記の口座へお願いいたします

八十二銀行 長野北支店 普通 1 3 3 7 2 2 一般社団法人長野高等学校金鶏会
長野信用金庫 城北支店 普通 0 0 3 1 9 5 8 一般社団法人長野高等学校金鶏会

口座振替の方は6月27日(火)に引き落としとなります。
本年度は高13回までの会員の方々が会費免除になります。

事務局便り

- 新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月8日から「5類感染症」となり、世の中の動きも元に戻ったかようになってきました。金鶏会でも今年は総会、懇親会とも従前のおりに実施する予定で準備をしています。ただ、残念ながら懇親会費は値上げせざるを得ませんでした。諸事ご賢察いただきたくお願いいたします。
- 学年、クラス、班活、地域、職場等の金鶏会(同窓会)ですが、コロナ禍で開催されていなかったものがそろそろ復活してきていませんか? 「日新鐘」に様子等を掲載させていただきたいので、事務局まで開催情報をお寄せください。ホームページでお知らせもしますし、本会からお祝いも差し上げています。
- 卒業生の奨学資金に使うと欲しいと匿名の同窓生からのご寄付を令和3年度につづいて4年度もいただきました。そのため太陽光奨学金への上乗せ給付がしばらく続けられます。直接御礼を申し上げられず心苦しいところですが、この場で感謝の意を表したいと思います。誠にありがとうございました。